

氏名(本籍)	ない どう あすか 内藤 明日香 (千葉県)
学位の種類	博士(医学)
学位記番号	博甲第 3465 号
学位授与年月日	平成 16 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	医学研究科
学位論文題目	慢性閉塞性肺疾患 (Chronic Obstructive Pulmonary Disease: COPD) における健康関連 Quality of Life (Health-Related QOL: HRQL) の検討
主査	筑波大学教授 医学博士 豊岡 秀訓
副査	筑波大学教授 博士(医学) 大久保 一郎
副査	筑波大学助教授 医学博士 鬼塚 正孝
副査	筑波大学助教授 博士(医学) 和田 哲郎

論文の内容の要旨

(目的)

慢性閉塞性肺疾患 (COPD) は健康関連 Quality of Life (HRQL) を障害する疾患として呼吸器専門家の間では重要な関心事である。その一方で一般社会における COPD への理解は低く、社会的なサポートも充分とは言えない。本研究は HRQL の関連因子である疾患、個人特性、医療介入、社会因子の 4 点からアプローチし、これらの各々と HRQL との関連を検討したものである。

(対象と方法)

- 1) COPD 患者における HRQL の現状: 日本人 COPD 患者 73 例に HRQL の尺度である SF-36, CRQ, 2 種類の質問票の記入を依頼し、得られたデータと対象の年齢、体格、肺機能との関連を解析した。
- 2) COPD における抑うつと HRQL の検討: 日本人 COPD 患者 29 例に抑うつ尺度である SDS, HRQL 尺度である SF-36, CRQ の質問票を依頼し、抑うつと HRQL の関連を解析した。
- 3) COPD 患者における運動能力と HRQL の検討: 日本人 COPD 患者 23 例に 6 分間歩行及びエルゴメーター漸増運動負荷試験の 2 種類の運動耐容能テストを行い、その結果と HRQL (SF-36, CRQ) との関連を解析した。
- 4) COPD の新治療としての Non-Invasive Positive Pressure Ventilation (NIPPV): 慢性呼吸不全の治療である NIPPV の血液ガス、入院期間、肺機能における効果と患者の訴えた問題点を 5 例の慢性呼吸不全患者を対象にまとめた。
- 5) 日英の COPD の比較: 異なる 2 つの社会、日本と英国の COPD 患者 (各々 73 例, 94 例) の背景, HRQL (SF-36) の違いについて検討した。
- 6) 社会のサポートが COPD 患者の HRQL 向上にはたす役割: 英国人 COPD 患者 94 例を対象に社会からのサポート、ストレスを質問票、DUSOCS で評価し、HRQL 尺度である SF-36 と SGRQ のスコアとの関連につき解析を行なった。

(結果)

- 1) COPD 患者は国民標準値よりも低いレベルの HRQL スコアを示し、患者における HRQL の障害を示した。また、個人特性として体格 (BMI) と、疾患因子として閉塞性換気障害 (predicted FEV1.0%) と HRQL のドメインは有意な相関を示した。
- 2) COPD 患者で 52% と高率な抑うつ傾向を認め、抑うつ患者は HRQL の複数のドメインにおいて有意に抑うつを認めない患者よりも低スコア、不良の HRQL を示した。また、抑うつは肺機能や運動能との関連は認めなかった。
- 3) COPD 患者で低肺機能の患者ほど運動能の低下を示すとともに、低運動能の患者ほど不良な HRQL を示した。
- 4) NIPPV の介入により血液ガスの改善、入院期間の短縮という効果が認められる一方、マスク不快感、冬期使用時マスク内結露による睡眠障害など、日常生活における問題が患者からは挙げられた。
- 5) 日英 COPD 患者では英国人患者で有意に女性が多く、日本人患者で有意にやせが多いという結果であった。日英男性患者における HRQL 比較では、日本人患者において有意に良好な HRQL スコアを得た。
- 6) 家族以外のサポートが多く得られているほど、HRQL は良好である一方、家族のサポートの多い患者では社会生活能力の低い傾向が見られた。家族のサポートはやせの患者でより多く得られていた。その他、高齢患者で不良の HRQL を、女性で心の健康の項目における HRQL の不良を、男性で全体的健康感、活力の項目における HRQL の不良を認め、やせでも過体重でも不良な HRQL と関連するという結果となった。

(考察)

今回の検討では COPD 患者の特徴である、高齢、抑うつや運動能の低下は HRQL の不良と関連を示し、抑うつ対策や運動能保持のリハビリの必要性を示すものとなった。英国人患者では、やせだけでなく、過体重も HRQL の不良と関連を示した。この結果は日本の食生活の欧米化を考慮すると、将来わが国でも起こりうる問題である。日英の比較では日本人患者における良好な HRQL が認められ、従来の日本社会の構造(家族構成など)が COPD 患者の HRQL において有利に働いている可能性を示唆するものであった。一方、英国社会における家族以外のメンバーによる周囲の支援が患者の HRQL 向上と関連することを示し、核家族化の進む日本における今後の社会への課題を提案した。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は COPD 患者における健康関連 Quality of Life (HRQL) を SH-36, CRQ などを用いて多面的に検討した臨床研究である。COPD を身体的問題としてのみ捉えるだけでなく、精神心理、社会活動の面からのアプローチを試み、HRQL の影響を明らかにした。その他、日英での HRQL 比較など今までに無い結果を導き出している。COPD 患者の今後の治療に様々な示唆を与える優れた研究であり、学位論文として評価できる。

よって、著者は博士 (医学) の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。